

# 伊丹市：このまちのかたち



兵庫県伊丹市都市創造部都市企画室 主幹 綾野 昌幸

## 1. 認定後の状況

平成20年7月に認定を受けてから、この3月で2年8ヶ月ほど経過した。計画期間も折り返しに入ったところで、これまでの歩みを振り返ってみたい。

なにより、一番劇的なのは「まち衆」の大活躍である。中心市街地活性化基本計画の数値目標の一つとして「まちづくりサポーター数」を掲げているが、単にまちづくりに取り組む方の数が増えているだけでなく、内容も際立っている。このことについては、後段で詳しく述べたい。

一方、商業面で見ると近隣他都市で続々と大規模ショッピングセンターが開店し、厳しい状況は続いている。

## 2. 事業の進捗状況

基本計画では全73事業を掲げているが、ハード事業についてはおおむね順調に進んでいる。現在まで道路整備、中心市街地で重要なイベント広場になっている三軒寺前広場整備、歩行者優先道路のプランター設置、中心市街地案内板設置などが完了し、新図書館・(仮称)交流センターの整備が平成23年度内に完成予定となっている。

ソフト事業についても以前から取り組んでいるものも多く、まずまず順調に進捗している。基本計画に具体的には挙げてなかったが、平成20年10月から2ヵ年で兵庫県の阪神・淡路震災復興基金の「まちのにぎわいづくり一括助成事業」を「清酒発祥の地：伊丹」らしく「酒文化が溢れるまちなか・伊丹ブランドの再構築」というテーマで受けることができ、新たな事業にも取り組めた。

主なものとして、まず「伊丹まちなかバル」が挙げられる。これは中心市街地に魅力ある飲食店が増

えてきたこともあり、函館西部地区で実施されていた「バル街」を参考にさせていただき、食べ飲み歩きのイベントを実施した。これは、当日だけでなくイベント後もお店に好影響を及ぼすなどのメリットがあり、しっかり地域に根付いた事業となった。余談になるが、関西では伊丹で開催したあと、各地に飛び火して人気のイベントとなっている。



バルでの行列



バルメニュー

バルの他にもこの助成金を活用し、中心市街地の広場的な空間（三軒寺前広場）で日本酒や日本酒カ

クテルを楽しむ「酒樽夜市」、アート、歴史、チョコレートなどテーマを決めて中心市街地をまち歩きする「aruco」など様々な事業を展開した。

また、バルを飲食店活性化の大きなツールとして継続していく一方、苦戦が続く物販店での活性化については全国で人気を博している「100円商店街」を導入し、こちらも一定の成果を挙げて継続する大きなツールとなっている。



100円商店街のにぎわい

### 3. まち衆の大活躍

伊丹市中心市街地活性化基本計画の中で「まち衆」という言葉が盛んに出てくる。以前から本市においては活躍が目立っていたが、ここ数年はそれぞれの連携がうまく取れてその力が倍増している感がある。

以前から「いたみわっしょい」という踊りのイベントや中心市街地の複数の商店街で連携して取り組んでいる「ハロウィンパーティ」などは地元の大学生、高校生と協働して実施していた。また、「鳴く虫と郷町」というイベントでは伊丹市文化振興財団と伊丹市昆虫館の職員が中心となり、中心市街地商店街や個人の方、行政と協働して開催している。

これに加え、前述した「伊丹まちなかバル」「酒樽夜市」「aruco」「100円商店街」などの新規事業は、さらに新たな方々の参画があった。新規事業であるが故に企画段階から様々な方のアイデアが盛り込まれ、またそれぞれ別個で活動していた団体や個人が有機連携できたように感じる。こうして、多くのまち衆の力により、これらの新規事業は成功裏に終わり、今後も継続していく予定である。

### 4. 数値目標について

数値目標としては「文化施設入場者の増加」「通行量の増加」「まちづくりサポーター数の増加」「空き店舗の減少」と4つを挙げているが、一番苦戦しているのは「空き店舗の減少」である。他の指標についてはおおむね期間内に達成できるのではないかと考えている。

厳しい空き店舗対策については、現在までも市独自制度の活用、リーシングアドバイザー招聘などで減少傾向にはあるが、今後は地権者、不動産業者、まちづくり関係者などを含めた伊丹特有の情報共有ができる組織の発足を検討するなど、仕組みづくりが重要であると考えている。

### 5. 今後の課題

ハード整備がほぼ終了し、まち衆の大活躍もみられ、一定「まちのかたち」はできつつあるように思える。

しかし、この3月に市内（中心市街地外）にさらに大型ショッピングセンターがオープンするなど、中心市街地を取り巻く状況は厳しい。前述した空き店舗対策に加え、さらなる活性化を目指すには、まちづくり会社とTMOから独立したNPO法人を融合させるシステムづくりを構築する必要があると考えている。

さらに、補助金頼りでない伊丹らしいイベントの創出、商店街が地域との関係を密接にするような商店街学校（まちゼミ）の取り組みなど計画期間後半で取り組んでいきたい。また、商店街を越えた若手商業者の集まりであるING（伊丹・ネクスト・ジェネレーション）も発足しているので今後の活躍に期待したい。（あやの まさゆき）



INGメンバー